

⇒「体制づくり」とは、来年度以降を見据え、分掌として文理探究科を体制的に独立させ、推進していくという意味である。今年度は、教務部内で探究科として運営しているが、来年度からは文理探究科が2学年に増えるため、分掌としての明確な体制を整え、継続的かつ組織的に取り組んでいく必要があると考える。

意見3：教員の業務は「ビルド&ビルド（積み重ね）」の傾向が強く、業務を見直し不要なものをスクラップしていかなければ、教員の負担感が増し、疲弊につながる。持続可能な教育活動のためには、業務の精選と効率化が不可欠である。

意見4：学習課題が多さに負担を感じている生徒もいるのではないか。課題の先に達成感や成功体験があることをしっかりと伝え、前向きに取り組めるような指導をお願いしたい。「クリエイティブチャレンジデー」は、課題にじっくり取り組める時間を確保できる点において良い取り組みであるといえる。

意見5：個に応じた適切な支援を行うために導入した学習支援ツールについて説明してほしい。

⇒生徒一人ひとりに応じた適切な学習支援を行うために、ベネッセの個別学習支援ツール「Classi」を導入した。これにより、生徒の学習状況を把握し、必要に応じた指導やフォローが可能となっている。

意見6：部活動の加入率について伺いたい。中学校では、単独チームの維持が難しく、合同チームでの活動が多くなっているが、本校ではどのような状況か。

⇒1年生の部活動加入率は92%で、学校全体では約80%が加入している。未加入の生徒の中には、少林寺拳法などの地域クラブやダンス、スケートボードなどに取り組んでいる生徒もあり、何も活動していない生徒はほとんどいない状況である。

意見7：今年度の学校パンフレットについて、内容・デザインともに分かりやすく、学校の特色がよく伝わっている。

意見8：今後は、推薦入試がますます一般化していくと聞いている。本校の総合型選抜や学校推薦型選抜による合格者は、今年度どのくらいの人だったか。推薦入試の傾向や割合についても、可能であれば教えてほしい。

⇒令和7年度の進路実績について、国公立大学への総合型選抜等による合格者は現役生48名中12名だった。私立大学については、総合型選抜や学校推薦型選抜による早期出願や併願が多く、合格件数は100件を超えている。推薦入試の活用が進んでおり、今後もこの傾向が続くと見込まれる。

（2）令和7年度学校教育目標・具体的重点目標について【定時制】

- ・令和7年度教育指導の重点及び学校経営計画
- ・令和7年度各分掌の現状と課題及び年間目標と具体的取組

意見1：外国籍の生徒が7割を占めており、進路実現に向けて何とか対応している状況とのことだが、実際のところ、現場の実情はどうなっているのか。

⇒今年度の就職者は7名で、そのうち日本人が3名、外国籍の生徒が4名である。県外就職は外国籍の生徒2名で、愛知県内の企業に採用された。そこでは、外国籍社員と日本人正社員との間のコミュニケーションを担う役割として期待されており、語学力を活かした人と人をつなぐ仕事に従事している。外国籍の生徒が持つ言語能力という強みを活かし、進路実現につながった好事例である。

意見 2 : 意見 1 の事例は成功例ではあるが、地元企業の理解と協力が不可欠であり、今後の課題解決の糸口になることを期待している。

意見 3 : 令和 4 年度以降、就業実績が減少しているのは、生徒数の減少が要因か。令和 6 年卒業生の入学時の人数は何名か。一定の割合で減っているように見受けられるが、実際の状況を教えてほしい。

⇒ 令和 6 年度および令和 7 年度の募集定員は 60 名に拡大されており、それ以前は 40 名の定員であった。1・2 年生は定員が増えたことにより、在籍者数も増加している。令和 6 年度卒業生については、入学当初は 35 名が入学したが、その後 15 名が進路変更している状況である。

意見 4 : 全日制と定時制で、何か連携して取り組んでいることはあるか。

⇒ 今年度は、定時制と全日制の相互授業見学を計画している。定時制では、学び直しも含めて、生徒一人ひとりに応じた指導を行っており、全日制の教員、特に経験年数の浅い教員にとっては、参考になる点が多いと考えている。

6 会議のまとめ

第 1 回学校運営協議会では、全委員より今年度の本校の教育指導の重点及び学校運営計画について承認が得られた。

本校のあるべき姿に対して様々な意見があり、学校運営協議会委員の方からの期待の大きさを改めて感じた。生徒一人ひとりの多様な背景や学びのスタイルに応じた教育を大切にしながら、文理探究科の理解促進と支援体制の充実、教員の業務負担を軽減しつつ、組織的な体制整備を進め、探究的な学びを継続的に推進していきたい。また、課題に取り組む意義や成功体験を丁寧に伝え、生徒の意欲を育む指導を心がけていきたい。

外国籍生徒の進路支援にも力を入れ、地域との連携を深めながら、生徒が持つ言語能力などの強みを活かせる機会を広げていく。定時制との連携や部活動・地域活動の支援、広報の工夫を通じて、学校全体の魅力と教育の質をさらに高めていきたいと考えている。